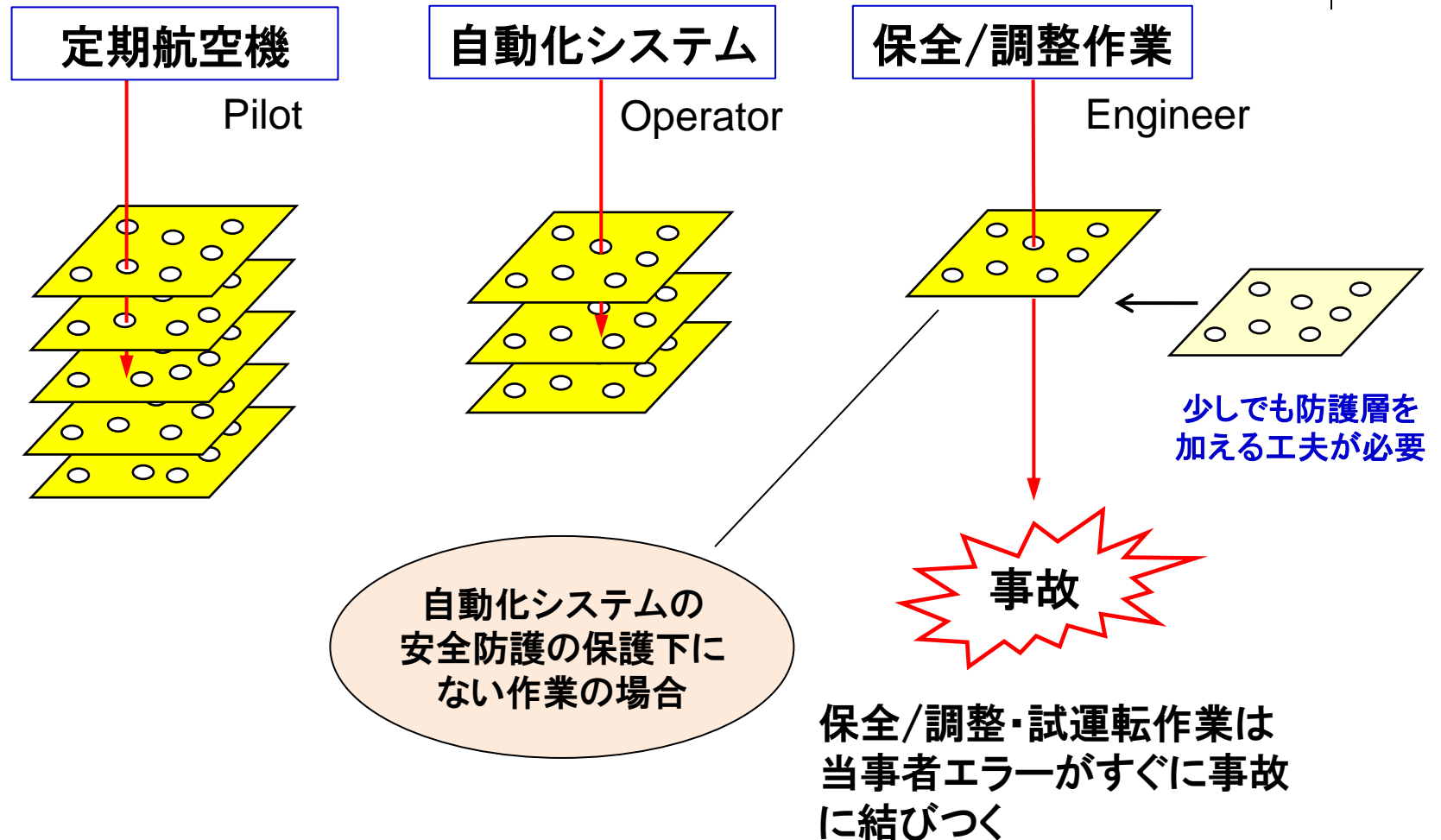
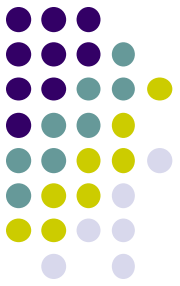


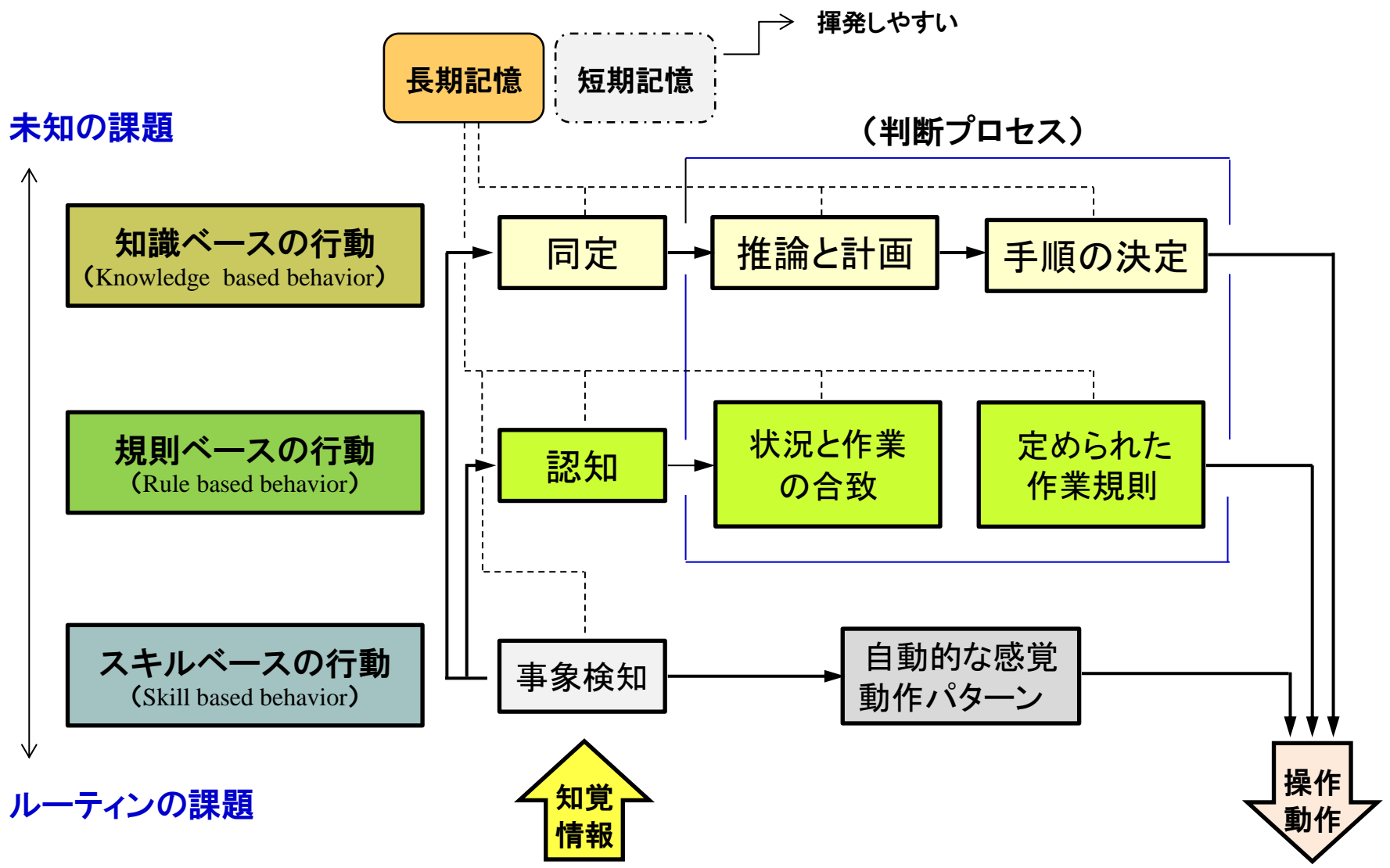
保全・調整作業の特質

— 事故防止の防護層の枚数の違い



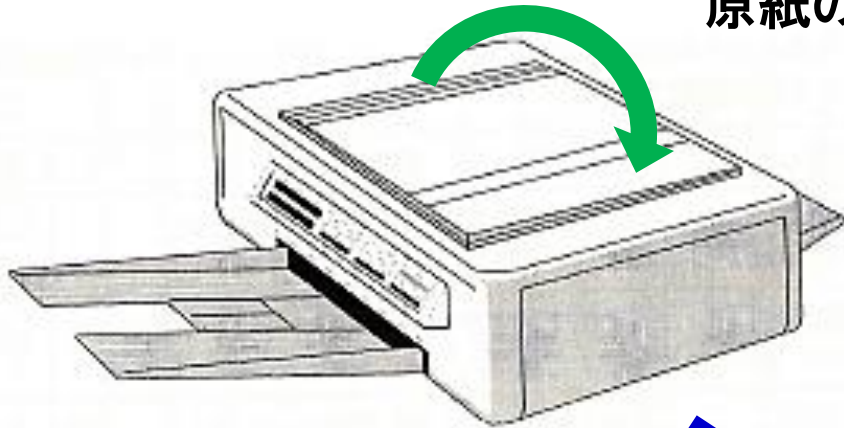


J. Rasmussen の「行動モデル」



よくあるオMISSION・エラー(失念)の例

コピーを終えて、カバーの下の
原紙の最終頁を取り忘れる！



汎用コピー機



カバーを閉じた時に必ず
「警告」が目に入る工夫





作業中断/再開時に揮発しやすい 「短期記憶」は身体の外に置く — 「外化」

失念防止の工夫

- ◇ 「下げ札」 (reminder) を現場に残す
- ◇ メモ欄は未記入でも「想起」のトリガーになる
- ◇ 複数にわたる「重要想起事項」がある場合は中断時にメモ欄に走り書きをしておく



作業再開時に無意識的な Skill based behavior に流れることを防ぎ

- ・ Knowledge based behavior (知識ベース)
- ・ Rule based behavior (規則ベース)

行動への復帰を促す

二つ折りの「下げ札」



Good reminder
(作業中断リマインダー)

忘れてはならないもう一つ大事な鉄則

- ◆ ロックアウト措置もロックアウト解除も必ず「危険領域」に入る当事者が必ず自らの手で直接行うこと
 - ・・・ Personal Key は必ず本人が施錠、解錠し Tag (札) の掛け外しも本人以外の人間が代わって行ってはならない

《 記銘の保持効果 》

他人の手違いを防ぐことのほか、施錠、解錠、札の掛け、外しの実行行為を自分の記憶に明瞭に留めることができる

